



News Release

2015年4月17日

京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) と武田薬品の iPS 細胞研究に関する 10 年間の共同研究契約締結について

京都大学 iPS 細胞研究所(所在地:京都市左京区、以下「CiRA」(サイラ))と武田薬品工業株式会社(本社:大阪府中央区、以下「武田薬品」)は、このたび、心不全、糖尿病、神経疾患などにおける iPS 細胞技術の臨床応用に向けた共同研究の実施に関する契約を締結しましたのでお知らせします。T-CiRA (Takeda-CiRA Joint Program for iPS Cell Applications)と称する本提携により、iPS 細胞技術を用いた創薬研究や細胞治療に関する複数の研究プロジェクトが実施されることとなります。iPS 細胞の発見者で、ノーベル賞受賞者である山中伸弥 CiRA 所長が研究全体を指揮し、武田薬品は長期にわたる研究費用の提供と研究の運営に対する助言を行い、藤沢市に所在する湘南研究所内の研究設備を提供します。

iPS 細胞技術は医療の未来に画期的な変革をもたらす可能性があり、その応用は創薬研究、細胞治療、薬物安全性評価など多岐にわたります。CiRA と武田薬品は 10 年間にわたり、CiRA が主導する研究プログラムを共同で実施することとなります。本提携は、莫大な時間と労力を要する iPS 細胞技術の研究と臨床応用に大きく貢献するものと期待されています。

CiRA 所長の山中伸弥は、「日本を代表する製薬企業の武田薬品工業株式会社と 10 年にわたる共同研究契約が締結できたことは、iPS 細胞技術を用いた医療応用を実現する上で大きな力になります。武田薬品のご協力に心から感謝申し上げます。この提携を通して、多くの方々に関わる病気のみならず、稀少疾患など、さまざまな疾患の治療法開発に貢献してまいります」と述べています。

武田薬品代表取締役社長 CEO の Christophe Weber は、「このたび、iPS 細胞に特化した先駆的な中核研究機関として世界をリードする CiRA と提携できることを嬉しく思います。本提携を通じ、当社は、日本の再興戦略の一翼を担う iPS 細胞技術の応用について、CiRA の研究を長期にわたり支援してまいります。武田薬品と CiRA の共同研究を通じ、新薬や細胞治療など、いち早く患者さんのニーズを満たす革新的な治療が届けられることを願っています」と述べています。

本提携は、日本が国家プロジェクトとして推進する iPS 細胞技術の臨床応用の方向性と合致します。武田薬品は湘南研究所内の研究設備、および 10 年間で 200 億円の提携費用を提供します。武田薬品はさらに、10 年間で 120 億円以上に相当する研究支援(施設、設備、武田薬品の研究者など、さまざまな研究支援)を提供します。研究人員は全体で 100 名程度を予定しており、武田薬品湘南研究所を拠点として、グローバルで新たに採用する人員も含み、武田薬品および CiRA よりそれぞれ 50 名程度が共同研究に従事します。また、本提携においては、武田薬品の化合物ライブラリーなど特別な研究資産も用いられます。

当初の研究分野として可能性の高いものには心不全、糖尿病、精神神経疾患、がん免疫療法などが挙げられており、共同研究の進展に伴い、新たなプロジェクトが追加される見込みです。共同研究が軌道に乗った段階では、10 件前後のプロジェクトが同時進行することになります。

以上

<京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) について>

国立大学法人京都大学の 14 番目の附置研究所として、平成 22 年 4 月 1 日に設立されました。世界初の iPS 細胞に特化した先駆的な中核研究機関としての役割を果たすことなどを目的としています。現在、山中伸弥教授を所長として、約 30 の研究グループが、基礎研究から前臨床、臨床応用に向けた研究、倫理的課題の研究に取り組み、iPS 細胞を用いた再生医療や創薬の実現を目指しています。詳細については <https://www.cira.kyoto-u.ac.jp/> をご覧ください。

<武田薬品について>

武田薬品は、研究開発型の世界的製薬企業を目指して、自社研究開発を強化するとともに、ライフサイクルマネジメントの推進、導入・アライアンスの積極展開を通じて研究開発パイプラインの充実を図り、ミッションである『優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する』の実現に努めています。詳細については <http://www.takeda.co.jp/> をご覧ください。